

令和4年度石川県立九谷焼技術研修所運営委員会

次 第

日 時 令和5年1月26日(木)午後1時30分より
場 所 九谷焼技術研修所1階 会議室

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

(1) 令和4年度事業の実施状況

(2) 令和5年度事業計画

(3) 研修の状況について

4 意見交換

5 閉 会

石川県立九谷焼技術研修所運営委員会

(R5.1.26(木)13:30～)

氏名	役職名等	○出 ×欠
いの まさみつ 伊野 正満	(公財)九谷焼振興協会理事長	○
かぶらき もとよし 鏑木 基由	石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会理事長	○
みずの いちろう 水野 一郎	金沢工業大学教授	○
ほりうち ちが 堀内 千芽	クラフトAギャラリー 企画ディレクター	×
よこやま まき 横山 真紀	横山真紀デザイン室 アートディレクター	○
しんたき しょう 新滝 祥子	(株)ゆのくにの森 取締役社長室長	○
いで きちこ 井出 幸子	陶芸家、伝統工芸士	○
ふたぎ ひろこ 二木 裕子	石川県博物館協議会理事、前小松市立博物館長	×
ふじわら すむ 藤原 励	(公財)石川県デザインセンター専務理事	○
ただ たけこ 谷田 好子	能美市婦人団体協議会会長	○
みやはし しょうえい 宮橋 勝栄	小松市長	○ 代理出席
いで としあき 井出 敏朗	能美市長	○

(小松市長代理：山本ゆかり 市にぎわい交流部広域観光担当部長兼観光交流課長)

令和4年度

石川県立九谷焼技術研修所運営委員会

目 次

(1) 令和4年度事業の実施状況について

① 在校生及び講師の状況	1
② デザイン支援事業	1
③ 公開講座	1
④ 作品展	2
⑤ 普及啓発	3
⑥ 所外研修等について	3
⑦ 業界講座	4
⑧ 干支飾皿の制作	5
⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について	5

(2) 令和5年度事業の実施計画について

(3) 参考資料

① 令和4年度卒業生の進路状況（予定）について	8
② 令和4年度研修生の現状について	9
③ 入学者等の推移について	10

(1) 令和4年度事業の実施状況について

① 在校生及び講師の状況 (令和4年4月現在)

本科	26人	1年	14人
		2年	12人 (1人休学中)
研究科	9人		
実習科	21人		(2人休学中)
計	56人		
顧問	2人		
講師	43人	(県外 8人、県内 35人)	
計	45人		

② デザイン支援事業 (H17年度～)

自立支援工房個室工房入居者(入居者0B含む)や共同工房使用者等の若手後継者を対象に、デザイン能力を高め時代のニーズにあった商品開発を進めるため外部講師の指導のもと、商品企画、デザイン、販売方法に至るプロセスを学ぶ。

検討会 7回開催 参加者 11人

③ 公開講座

(ア) 夏期講座 (S61年度～) 資料 P1

期日 8月18日(木)・23日(火)
テーマ 「九谷焼上絵付け・デコ盛技法の修得」
講師 九谷焼伝統工芸士 相川 志保 氏
受講者 県内の九谷業界従事者 (17名)

(イ) 上絵付技法入門講座 (H3年度～)

期日 11月3日(木・祝) 午前の部9:00～12:00・午後の部13:00～16:00
講師 出口 瑞花 氏
受講者 九谷焼の上絵付けに興味のある方 17名

(ウ) 上絵付け出張教室 (H25年度～)

目的 県内の高校等の美術部等を対象に九谷の魅力にふれ
卒業後の進路の一つに考えてもらう。

開催日時	場所・体験者	参加者数
9月 2日	県立金沢伏見高等学校 美術部	13名
9月14日	県立小松高等学校 美術部	15名
10月 5日	県立翠星高等学校 芸術「工芸I」選択者	19名
11月 9日	県立金沢商業高等学校 美術部	14名
11月10日	県立金沢泉丘高等学校 美術部	13名
11月11日	県立金沢辰巳丘高等学校 芸術コース	23名

* R3年度 5校

(エ) 海外研修生の絵付け体験 (H25年度～)

※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止

④ 作品展

名 称	期 日	場 所	内 容
「卯年 九谷焼千支飾皿展」 「九谷焼のどうぶつたち」	12月14日(水) ～28日(水)	いしかわ動物園内 学習センター	・千支「卯」をテーマに制作した 千支飾皿7点の展示 ・本科2年課題制作「陶彫実習」 作品の展示(11体)
	1月5日(水) ～24日(月)		
卒業・修了制作展 (予定)	3月9日(木) ～17日(金)	研修所1Fホール	・令和4年度 研修所卒業・ 修了生の作品展示
	3月24日(金) ～31日(金)	しいのき迎賓館 ギャラリーA・B	・令和4年度研修所卒業・ 修了生の作品展示 ・デザイン支援事業成果品の展示

⑤ 普及啓発

(ア) 研修所 1日開放

「九谷茶碗まつり」の期間中 5月3日(火・祝)・4日(水・祝)・5日(木・祝)

*令和3年度卒業作品・デザイン支援事業成果品 展示

「九谷茶碗まつり(秋の茶碗まつり)」の期間中 10月15日(土)・16日(日)

*研修生課題作品の展示

(イ) オープンキャンパス 資料 P2

目的 九谷焼の魅力や研修所について理解を深めることにより、入学志願者の増加を図り、九谷焼の振興と若手後継者の育成に寄与することを目的に開催。

・コロナ対策として、完全予約制で1日3回 時間を区切って開催
・オンラインでの開催

内容 研修所説明会、施設案内、個別進学相談、研修生の実習見学、上絵付け体験、研修生作品の展示、

期日 8月28日(日) 9:00～、10:30～、13:00～

参加者 33名

⑥ 所外研修等について

(ア) 県外研修の実施(本科2年生)

目的 県外窯業産地の実態を見聞し、陶芸に対する視野を深める。

期日 11月24日～25日

研修先 滋賀県・三重県・京都府

(陶額堂、滋賀県立陶芸の森、伊賀焼伝統産業会館、京都府立陶工高等技術専門校 他)

(イ) 企業派遣研修の実施

目的 企業における成形、加飾、販売等の実務を体験する。

対象 本科2年生と研究科の就職希望者

期日 10月～12月頃(1週間程度)

研修先

(有) 藤田美山	2名
山本長左陶房	1名
(有) 三田製陶所	1名
(株) 九谷作田(青窯)	1名
(株) 妙泉陶房	1名
山崎裕理工房	1名

(ウ) 九谷焼産地との交流会の開催

目 的 企業と研修生が話すきっかけ作り
業界企業に、研修生や研修所への理解を深めてもらうため
実習現場の見学および課題作品を展示し交流の場を設ける。

対 象 九谷焼事業者

期 日 6月9日(木) 15:00~16:20 10企業

(エ) 奨学生の推薦

(公財)九谷焼振興協会より毎年、研修生に奨学金の給付をいただ
いているもの。

令和4年度の推薦者・決定者 (研究科生 1名)

⑦ 業界講座 (H20年度~)

[目 的]

九谷焼産地の組合役員、企業経営者等を講師とした特別講座を
開講し、現役研修生が、卒業・就職前の、産地や組合の現状・課題、
活性化の方向、九谷焼の生産・流通・販売の実体、業界の商習慣、
等々の理解を深める機会とするとともに、組合・業界メンバーとの
コミュニケーションの円滑化の一助とする。

[講座概要]

・5月17日(火)	「業界講座 I」	西田 上 氏
・5月27日(金)	「業界講座 II」	北野 広紀 氏
・6月24日(金)	「業界講座 III」(OB)	小野内 俊夫 氏 (H10年度専門コース卒業)
		堀畑 蘭 氏 (H27年度研究科卒業)

⑧ 干支飾皿の制作 (H20年度～)

[目的]

九谷焼干支飾皿を制作し、県の関係先等に配布することにより、九谷焼のPR、技術の向上に資するとともに、制作を通して自立を目指す若手作り手を支援する。

[制作方法]

自立支援工房個室工房入居者及び歴代入居者と研修所の卒業生を対象に、デザインコンペを実施し、参加者7名 作品数7点の中から道場 八重氏・朴木 友美氏の作品2点を採用。

⑨ 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・所の入口を一か所のみ限定
- ・毎朝、研修生・講師・職員の検温と手の消毒を実施
- ・実習では、密にならないように教室の換気とマスクの着用の徹底
- ・休み時間及び昼食時などはグループや長時間に及ぶ会食を避け、大声を出さず、会話時はマスク着用の徹底
- ・実習修了後、使用した机などの消毒
- ・飛まつ防止パネルの設置
- ・感染拡大地域の県外講師については、オンライン授業の実施

(2) 令和5年度事業の実施計画について

(令和5年1月25日現在)

① 在校生及び講師の状況

本	科	1年	(定員 15人)	
		2年	(定員 15人)	13人確定
研	究		(定員 15人)	3人確定
実	習		(定員 30人)	
顧	問	2人		
講	師	46人	(県外 8人、県内 38人)	
計		48人		

② デザイン支援事業 (H17年度～)

自立支援工房個室工房入居者(入居者OB含む)や共同工房使用者等の若手後継者を対象に、デザイン能力を高め時代のニーズにあった商品開発を進めるため外部講師の指導のもと、商品企画、デザイン、販売方法に至るプロセスを学ぶ。

検討会 7回開催予定

③ 公開講座

(ア) 夏期講座 (S61年度～)

期日 8月

(イ) 上絵付技法入門講座 (H3年度～)

期日 11月3日

(ウ) 上絵付出張教室 (H25年度～)

目的 県内の高校や短大・大学の美術部等を対象に、九谷の魅力にふれ卒業後の進路の一つに考えてもらう。

(エ) 海外研修生の絵付け体験 (H25年度～)

④ 作品展

- ・卒業・修了制作展
 - ・デザイン支援事業成果品展
 - ・辰年 九谷焼干支飾皿展
- 等

⑤ 普及啓発

(ア) 研修所 1日開放

- ・「九谷茶碗まつり」の期間中
- ・「九谷陶芸村まつり(秋の九谷茶碗まつり)」の期間中

(イ) オープンキャンパス

目 的 九谷焼の魅力や研修所について理解を深めることにより、入学志願者の増加を図り、九谷焼の振興と若手後継者の育成に寄与することを目的に開催する。

内 容 所内案内、個別進学相談、研修生の実習見学 等
期 日 研修所夏期休暇中

⑥ 所外研修等について

(ア) 県外研修の実施 (本科2年生)

目 的 県外窯業産地の実態を見聞し、研修生の陶芸に対する視野を深める。

(イ) 企業派遣研修の実施

目 的 企業における成形、加飾、販売等の実務を体験する。

対 象 本科2年生と研究科の就職希望者

期 日 10月～12月頃 (1週間程度)

(ウ) 九谷焼産地との交流会の開催

目 的 企業と研修生が話すきっかけ作り

対 象 九谷焼事業者

(エ) 奨学生の推薦

(公財)九谷焼振興協会より、研修生に奨学金の給付をいただいているもの。

⑦ 業界講座 (H20年度～)

[目 的]

九谷焼産地の組合役員、企業経営者等を講師とした特別講座を開講し、現役研修生が、卒業・就職前の、産地や組合の現状・課題、活性化の方向、九谷焼の生産・流通・販売の実体、業界の商習慣、等々の理解を深める機会とするとともに、組合・業界メンバーとのコミュニケーションの円滑化の一助とする。

⑧ 干支飾皿の制作 (H20年度～)

[目 的]

九谷焼干支飾皿を制作し、県の関係先等に配布することにより、九谷焼のPR、技術の向上に資するとともに、制作を通して自立を目指す若手作り手を支援する。

[制作方法]

自立支援工房個室工房入居者及び歴代入居者と研修所卒業生を対象に、デザインコンペを実施。

① 令和4年度卒業生の進路状況（予定）について

(令和5年1月25日現在)

○本科2年（11名）

県内陶芸関係	6名
・(有)三田製陶所	(小松市) 2名
・(有)藤田美山	(能美市) 1名
・山近泰工房	(能美市) 1名
・牟田陽日工房	(能美市) 1名
・小松セラミック・ラボラトリー	(小松市) 1名

未定 2名

研究科進学 3名

○研究科（9名）

県内陶芸関係	6名
・山本長左陶房	(加賀市) 1名
・(株)妙泉陶房	(加賀市) 1名
・谷口製土所	(小松市) 1名
・(有)藤田美山	(能美市) 1名
・創楽庵	(能美市) 1名
・creava	(金沢市) 1名

自立 3名

②令和4年度研修生の現状について

(令和4年4月現在)

学 科	定 員	在籍者数	男	女	県 内	県 外	
	人	人	人	人	人	人	
本 科	1年	15	14	2	12	7	7
	2年	15	12	3	9	5	7
	小計	30	26	5	21	12	14
研 究 科	15	9 復1	1	8 復1	5	4 復1	
計	45	35	6	29	17	18	
	[休学者：内数]	休 [1]		[1]	[1]		
実 習 科	30	21	7	14	12	9	
		休 [2]	休 [2]		休 [2]		
合 計	75	56	13	43	29	27	
	[休学者：内数]	休 [3]	[2]	[1]	[3]		

③入学者等の状況について

(令和4年4月現在 単位：人)

学科	定員	受験者数	合格者数	性別		倍率	入学者	出身地別	
				男	女			県内	県外
本科									
4年度	15	23	16	2	14	1.53	14	7	7
3年度	15	16	15	4	11	1.07	13	7	6
2年度	15	17	13	1	12	1.13	13	9	4
31年度 (R元年度)	15	18	15	1	12	1.20	13	9	4
30年度	15	16	13	0	14	1.07	13	7	6
研究科									
4年度	15	8	8	1	7	0.53	8	5	3
3年度	15	6	6	0	6	0.27	6	4	2
2年度	15	4	4	0	4	0.27	4	3	1
31年度	15	5	5	2	3	0.33	5	4	1
30年度	15	4	4	1	3	0.27	4	2	2
実習科									
4年度	30	22	21	7	14	0.73	21	12	9
3年度	30	19	16	4	12	0.63	16	8	8
2年度	30	23	19	4	15	0.77	19	11	8
31年度	30	14	14	1	13	0.47	14	7	7
30年度	30	25	19	3	16	0.83	18	12	6

石川県立九谷焼技術研修所運営委員会設置要綱

(設 置)

第1条 石川県立九谷焼技術研修所の諸事業の円滑かつ効果的な運営を図るため、石川県立九谷焼技術研修所運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(委 員)

第2条 運営委員会は、15人以内の委員で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、知事が任命する。

- (1) 九谷焼関係団体を代表する者
- (2) 学識経験者
- (3) 関係行政機関

(任 期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 知事は、委員がその任務を行うことが適当でなくなつたと認めるときは、前項の期間内においても、これを解任することができる。

3 委員は、再任することができる。

(会 長)

第4条 運営委員会に会長を置く

2 会長は、委員が互選する。

3 会長は、運営委員会の会議を主宰し、運営委員会を代表する。

4 会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名した委員がその職務を行う。

(会 議)

第5条 運営委員会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 運営委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(庶 務)

第6条 運営委員会の事務を処理するため、事務局を石川県立九谷焼技術研修所内に置く。

(雑 則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、運営委員会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和58年7月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成3年9月24日から施行する。

12名中10名出席 2名欠席

1 開会

2 あいさつ

伊野委員長（(公財)九谷焼振興協会 理事長）

名古屋の展示会で新しいデザインや形状の必要性を感じた
焼物全体の問題でもあり、産地の問題でもあるのかもしれない
今日の話し合いで新しい方向性が見えてくるのかもしれない
研修所では新しい事を教えなければいけない

西尾所長

開所して38年、476名の卒業生、伝統工芸士96名中50名が卒業生
引き続き、産地で活躍できる人材育成を実施する
本科の募集が終了（定員15名のところ17名の志願）

3 報告事項

藤原次長から説明

- (1) 令和4年度事業の実施状況について
- (2) 令和5年度事業の実施計画について

4 意見交換

(公財)九谷焼振興協会の奨学金給付について 以下の意見あり

鏑木委員 奨学金受給者の産地定着率が低いのではないかと
厳しい面接をすべきではないかと

藤原次長 公募して親の収入などを添えて申請、振興協会で決定している
今年度からは卒業前に一筆もらうことにした

企業研修について 以下の意見あり

山本委員 企業研修と就職、考え方は関連しているのか

藤原次長 以前は職場体験だったが現在は就職を意識し繋げている

九谷焼業界の問題点について 以下の意見あり

鏑木委員 業界との交流会の実施で就職に繋がってはいるが、業界には職人が必要
一部の卒業生が有鉛を使用している 検査に引っかかると業界全体の問題になる

藤原次長 業界で活躍できる人材育成を目指し、業界との交流会を今後も実施する
鉛に関しては食器を制作する授業はすべて無鉛を使用

職人養成について 以下の意見あり

鏑木委員 京都府では徹底した職人養成をしているが研修所ではどの様に捉えているのか

伊野委員長 鏑木さんの要請も理解できる 研修所では今後検討して頂きたい

SNS などの情報発信について 以下の意見あり

- 横山委員 どの様な取り組みを予定しているのか
研修所は素晴らしい施設なので、もっと広報すべき
インスタのフォロワー数は来年までに倍にして欲しい（現状300）
- 藤原次長 HP の見直し（受験生が見る）・展示会やイベントの印刷物の充実
- 新滝委員 フォロワーは多ければいいわけではないが、1年本気で頑張れば出来るはず

進路状況について 以下の意見あり

- 新滝委員 未定の方が2名いるが、どのような状況か
- 藤原次長 生活の事も考え時給の良い仕事を探している
- 藤原委員 卒業後の産地の定着が良い
- 藤原次長 九谷で仕事をしたいという研修生が、ここ5年増加している
- 井出(敏)委員 能美市では事業所に対して年間600万の支援を行っているので活用して欲しい

九谷業界の現状について 以下の意見あり

- 鏑木委員 286組員 問屋(商人)100、作り手180(80歳以上の方が7~80名)
カタログ問題（掲載商品の製造に集中する）、中国問題（数が多く手がかかる）
⇒ 通常の流通が滞ると販売ルートは途切れてしまう
- 伊野委員 名古屋の展示会も来年から一か所開催になる
業界全体で協力していく努力が必要
- 新滝委員 サービス業でも同じ 来年の新幹線開業のチャンスを活かさなければいけない
- 鏑木委員 観光地ではなく文化を求め良いものを購入して欲しい

今年開催する国民文化祭について 以下の意見あり

- 山本委員 小松市では作家の器を使った茶会や、クタニズムとあわせて考えている
- 西尾所長 県民スポーツ部で準備は進んでいる 協力依頼があれば対応する

オープンキャンパスについて 以下の質問あり

- 水野委員 参加者はどのような将来を想像して参加してくるか
- 藤原次長 総じて色絵を目指し学んでから進路決定
- 水野委員 工業大学では建築家8割・職人2割で入学してくるが最後は逆転する
研修所も同じかもしれないが悪いことではなく現実を学ぶことも大切
- 井出(幸)委員 工芸は建築より両方やらないと上達しない
職人もしなければ作家にはなれない
- 鏑木委員 全国の職人の給料は月16万
- 水野委員 職人になる8割の内、数名が設計に戻ってくる
研修所ですべての答えは出ないだろう
可能な限り絵が描ける人を送り出すことが大切
業界の問題と一緒にすると難しくなるだろう